

お雛さまの今昔楽しんで

3月27日～29日第7回智頭・備前街道雛あらし

お雛さまを飾っている家に行き、ご馳走をいただく雛あらし。今年で第7回目を迎え、備前街道と智頭宿で行われました。各家庭のお雛さまやお嫁入りに持参された着物などが軒先に飾られ、桃の節句にふさわしく、美しい町並みを演出しました。木に和紙を貼り付けて、手作りのお雛さまを作る体験や、家々を回りながら、お雛さまを完成させるミニ雛作りラリーも行われ、子どもからお年寄りまで、楽しんで作っていました。お雛さまを飾っている家では甘酒やおいりが振る舞われ、観光客もお雛さまを眺めながらゆっくり過ごしていました。岸本彩良さん（智頭小1）は、「昔のお雛さまがあたりして、楽しい」と話してくれました。



自分のからだ・異性のからだについて学ぶ

3月19日 智頭中学校1年生「思春期教室」



保健所と智頭町の保健師が合同で、智頭中学校1年生に「思春期教室」を行いました。男子と女子に分かれて自分のからだ・異性のからだについて、〇×クイズで、保健体育のまとめを行いました。それぞれ異性のからだの話になると恥ずかしがったり、新しいことを知ったり、楽しく勉強できました。

自分のからだ・異性のからだを理解することで、自分を大切にし、周りの人も思いやることができること、正しい知識を知り、からだの悩みはひとりで抱え込まず、身近な大人に相談することの大切さを学びました。

教室後のアンケートでは、「また聞きたい」「異性のからだがわかった」などの感想がありました。

夜桜を眺めながらジャズにうっとり

4月11日桜まつり 野外ジャズコンサート

鳥取市出身のジャズピアニスト角脇真さん他3人を迎え、桜土手河川敷で野外ジャズライブが開かれました。桜の花びらが散る中、「ふるさと」「星に願いを」などを披露。250人が河川敷や土手など、思い思いの場所でジャズに耳を傾けました。「桜が満開の中で演奏でき、多くの人に聞いていただいとてうれしい」と角脇さん。夕暮れ時のあたたかい夕日が川面に映って、満開の桜が会場を包み、ゆっくりと時間が流れていました。



大きくなって帰ってきてね

3月26日山形小学校4年生サケを放流

山形小学校4年生がサケを卵から育て、放流しました。卵が学校にやってきたのは、12月27日で、放流する頃には3cmに成長しました。サケの事を調べて、毎日えさやりや温度管理をしながら、元気に育てました。子どもたちは春から北股川に住む生物などについて学習を深め、カジガが住む美しい川であることを学びました。イワナの卵も同時に育て、4月13日に放流しました。武田大地くんは、「大事に育てたので、大きくなって帰ってきてほしい」と話してくれました。サケが帰ってくるのは通常は4年後。元気な姿で帰ってきてほしいものです。



田舎のよさを観光に生かす

3月27日観光カリスマフォーラム智頭町で開催

美作・智頭田舎暮らし交流ツアーの一環として、観光カリスマフォーラムが智頭町で開催されました。ツアー参加者は美作市や大原町、智頭町を巡り、地域の人々と交流しながら、里山の環境を生かした観光について一緒に考え、体感しました。フォーラムでは、3人の観光カリスマと周辺市町村の自然を愛するみなさんが参加し、意見交換を行いました。大原宿の雛祭りの事例や佐用町平福の町並みの保全についてなど、各地の取



り組みを発表。どの町でも観光資源はたくさんあるが、観光に関わる人の発掘が難しい。行政だけに頼らない、自立して継続できる観光を目指していきたいと話されました。

諏訪保育園に寄付

ラスベガス智頭店（山崎和斗店長）より、地域貢献事業の一環として諏訪保育園に身長計付きデジタル体重計とデジタルカメラを寄付していただきました。

子どもたちのために活用させていただきます。

ありがとうございました。



人権擁護委員さんの紹介

井手口和子さん（本折）

井手口和子さん（本折）が法務省から人権擁護委員（3期目）に任命されました。1人ひとりの人権が大切にされる「明るいまちづくり」にご尽力いただきます。



森がぼくたちのようちえん

4月6日森のようちえん まるたんぼう 開園

決まった園舎を持たず、毎日森に通い活動するようちえん「まるたんぼう」が開園しました。智頭町の恵まれた自然の中で子育てできるすばらしさを実感した西村早栄子さん（大屋）が、おかあさん達に声をかけ、森のお散歩会をすることから活動が始まりました。子どもたちは恐れることなく森に入り、いきいきと活動します。ようちえんでは、月曜日から金曜日まで保育をし、森での活動だけでなく昔遊びや藍染めなど、地元の伝統的な文化も取り入れます。開園式では、花のリースを森に捧げたり、柿、栗、りんごなどの植樹も行いました。町外から参加の親子もいて、森で活動することを楽しみにしているようでした。

智頭町民限定で、5月11日から6月5日までの4週間は、1日3,000円のところ500円でお試しできます。くわしくは、智頭町森のようちえん まるたんぼう（090 - 6844 - 2790 午後4時半以降）へ。



独特な語りで紙芝居の世界へ

3月28日「紙芝居ち〜ず」石谷家住宅土間で上演

那岐地区の読書ボランティアをしているおかあさん達が、紙芝居を作ってみようということから結成された「紙芝居ち〜ず」。手作りの紙芝居で、会場を盛り上げました。結成して初めて作った紙芝居「穴の中からみてみたよ」では、もぐらの視点で穴の中から見える景色や動物を紙芝居で表現し、会場の子どもたちは、まるで自分かもぐらになった気分紙芝居に釘付けでした。また、那岐小学校児童が参加して作った切り絵の紙芝居「なぎじまん」は、那岐の自慢と言葉遊びが満載で、歌を交えた独特な語りで会場のみなさんが引き込まれていました。テレビやゲームとは違い、人が語る心温まるお話の世界を子どもたちにもっと体験してほしいと感じました。

